



まとめ編

「自治研」、それは自治労の精神そのもの

回答
自治研マイスター

本年一月から、「自治研お悩み相談室」と題して、皆さんからの疑問・質問をもとに、どのようにして自治研を進めていくかということについて、事例紹介も含め考えてきました。今号でいったん連載を終えるにあたり、これまでの議論を振り返り、第一期のまとめしたいと思います。

その1 ● 組合運動の推進には自治研が最適

まず、自治研そして組合運動を推進する方に。

まずまわりをみまわしてみましよう。組合員の減少、役員
の成り手不足、若者の組合はなれなどが大きな問題になって
いませんか？そうした課題を前に、従来型運動をくりかえし
ているだけでは、組織の未来は厳しいと言わねばなりません。
今こそ多様化する組合員のニーズをつかみ、これまで参加意
欲の低かった新しい層の参加者を増やしていくために、自治
研活動は大きな力になるはずです。

連載中に何度も触れたことですが、地方自治に関する学習
会だけが自治研ではありません。ボランティア活動、交流会、
地域活性化イベントなど、新しい工夫をすることで、自治研・
組合のイメージを変えていく必要があります。

「それが組合運動か？」とおつしやる先輩方もいるでしょう。

でも思い出してください。かつて組合が求心力を持っていた
時代には、レクリエーション大会や、スポーツ大会、文化発表
会、職場旅行、趣味のグループが活動の中心を担っていませ
んでしたか？そこで集う仲間が楽しみながら、現在以上の交
流を繰り広げていたはずですよ。そしてそこで培われた人の輪
・団結力が、いざというとき大きな運動につながってきたこ
とを忘れてはなりません。

まずは、組合員に参加してもらい、興味・関心を広げるこ
と。そして、少しでも意欲
を見せた方に、「今度こん
な企画があるよ。出てみ
ない？やってみない？」
と《居場所と出番》を与
えること。そこから始め
るしかありません。

〈関連質問〉

4月号 ● 「私の地域では、役員も組合員もほとんど自治研を知りません。どのように自治研を広めたいでしょうか？」
7月号 ● 「毎年、自治研集会を開催していますが、毎回「テーマを何にしようか？」
11月号 ● 「若い組合員を自治研に巻き込みたい」との2 ● 「若者が積極的に参加してもらえないような自治研活動にはどうしたらいいでしょうか？」

その2 ● とりあえずまちに出て

みんなで考えよう！

そこから見つける〈信頼〉

そして、組合員・公共サービスの仲間の皆さんへ。

先日、自治研の若手グループ「UNDER35」の企画で、「ゆるプロ」が行われました（詳しくは今号の特集記事をご覧ください）。ここでは、その日はじめて出会った市民団体関係者や高校生、自治体職員がグループになり、まちに出かけて「まちのために何かひとついいことをしよう」というテーマのもと、まち歩きイベントを行いました。

その参加者である鯖江市役所JK課第一期生メンバーのひとり・みどりさんが機関紙『じちろう』のインタビューに答え、次のような感想を述べていました。

「初めて会う人と町を歩いて、課題設定もないなかでまちづくりのヒントを探したが、何ができるか不安だった。ただ、やっているうちにできることが見つかって良かった。計画がなくても、まず地域に一步踏み出して、小さなことから、みんな考えてられる社会になればいい。」

役所や組合事務所といった内部で、身内同士あれこれ考えているのではなく、「まず地域に一步踏み出して」いくことの大事さを、JKメンバーは本能的・感覚的に学び、そのこと

を私たちに訴えかけているのです。

「市民がどう思うか心配」「トラブルになるのがこわい」というような姿勢では、何一つ守ることはできません。そして、そのための自由な実験の場こそが自治研であるべきです。「チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしないことを恐れる」とはホンダ創業者・本田宗一郎氏の言葉です。答えのわかかった活動、結果の見えた活動を毎年くりかえしているだけでは、何も変わらないどころか、どんどん取り残されていくだけです。ぜひ、組合こそが、まちのなかで、自治研をするべき時代なのです。

そして、そうしたなかで培った市民の皆さんとのネットワーク・信頼関係こそが、私たちが今、一番必要としているものです。その意味で「自治研活動」とは、市民とともに自治を守る「自治労精神」そのもの、真髓と言えます。

「いまこそ自治研」、そして、その主役はあなた！です。

〈関連質問〉

8月号 ● 住民の皆さんと市民感覚で自治研がしたい（その1）「テーマの決め方、活動の進め方がわかりません」
9月号 ● 同（その2）「活動のきっかけづくりが難しいのですが」



まもなく新年。新しい年に、新しい取り組みに挑戦しては、いかがかな？